

## スナップ写真 ハムフェア2012

JF3MTM



日曜日11時からアマチュア無線家でもあられる漫画家のすがやみつる先生のトークショーがあり拝聴しておりました。クラブブースを見て歩いていた時、ふと振り向くとすがや先生がおられ思わず写真と握手をお願いしてしまいました。"先ほど聴きにいられてましたね"と言われて"見てはったんや"と感激しました。サインも欲しかったです。すがや先生仮面ライダー、人造人間キャシャーンを書かれてたと記憶してます。アマチュア無線関係では4アマのテキストを漫画で書かれていたと思います。

左下 :1エリアの局長さんと撮った写真です。  
右下 :ついでにスカイツリーでの1枚も

JF3MTM柴田





**アイデア賞**  
泰中 美彦 (JE3BRS)  
ダミーロードがアンテナになるアダプタ



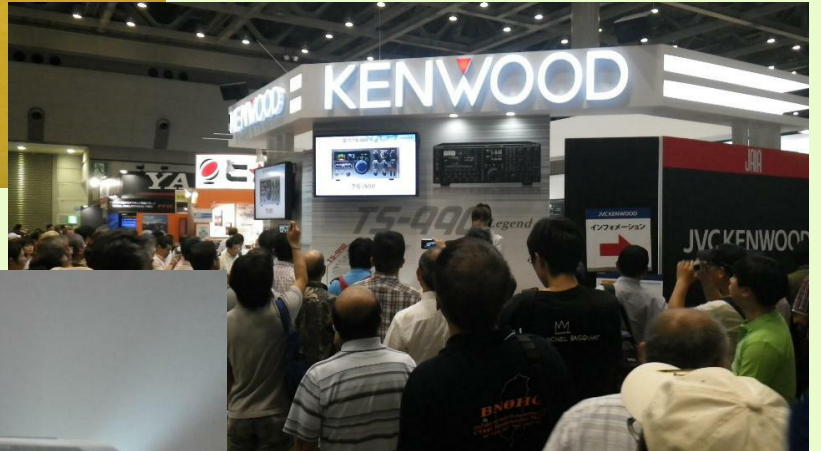
**最優秀賞**  
森本 清 (JA3CVF)  
Microwave test set (430MHz~135GHz)

自作作品コンクール優秀作品



YLiはJH1CBX  
明石市出身の歌手 MASACOさん  
関ハムにも来ていました。

初めてのQSOをみんなで助けています。



TS990はとにかく大きい。  
価格も高そうですが感心は高い  
やたらSWが多い。



スナップ写真 ハムフェア2012

JA3IVU 北井十生

FTDX3300は使いやすそう



シャッターチャンス

3rdの吉田 太一くん もうすぐ2歳 RTTYを運用しているように見えるでしょう (将来はハムに) JA3IVU 北井 十生



ALL ASIA 参加短信 JA3AOP / 杉山 暁

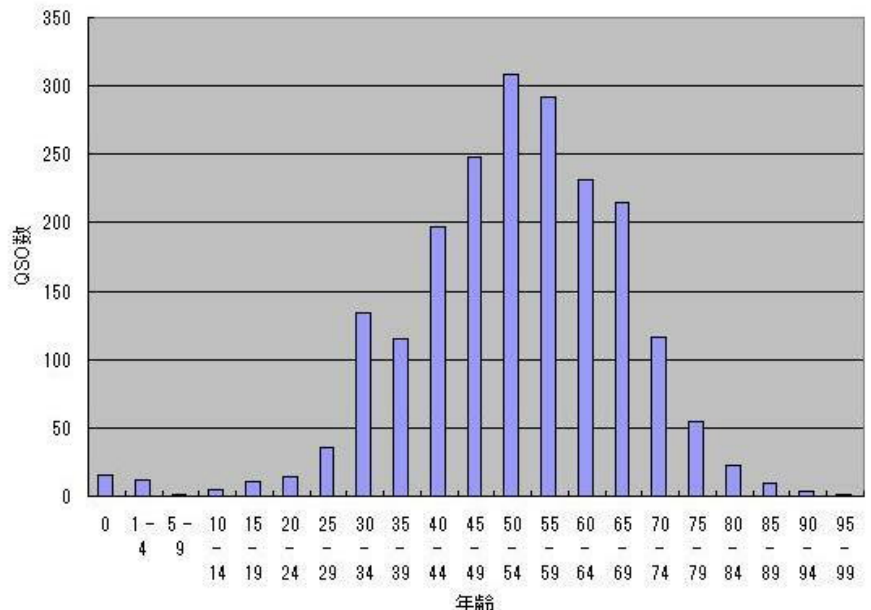
9月1日～2日のALL ASIA ssb コンテストに参加しました。前日夕方に淡路入りし、夕食後バンドの様子をチェック、28MHzでEUからたくさん呼んでくれて、少々夜更かしとなった。J13ZAGロールコールに参加したあとコンテスト突入。まずまずの調子でNA中心に15mを主にして進む。0730Z頃からEUが強くなる。0940Zに10mに上がり1300Zまで久しぶりに10mでのパイルアップを楽しんだ。2日目は10mはあまり開けなかった。手薄になった20m,40mの補充に注力。コマ切れ75mはCQを出すのが躊躇される。

今回のコンテストでは2000QSOを達成できた。QSO相手の年齢分布を調べてみると右のようになった。最年少は12、最高は98。

Time Off 15:10 ZAG, JAIG ロールコール含む  
Time On 32:50.

Max rate : 4.0/ min [ 1 min.] 240/ hr.  
2.5/ min [10 min.] 150/ hr.  
2.1/ min [60 min.] 124/ hr.

ALL ASIA ssb 年齢分布



Score - 1,526,178 Points

Band	QSOs	Pts	Cty
3.5	8	36	4
7	89	221	34
14	545	1549	59
21	983	2807	72
28	376	2140	57
Total	2001	6753	226
Score: 1,526,178			

# 南ア(ZS)、ジンバブエ(Z2)、ボツアナ(A2)を 旅して感じたこと

JH3AEF 東條純一

AFでも南部のこれ等の3カ国は現地語以外に英語が公用語として使われているほか、アフリカーナーと呼ばれる独特の言葉も公用語である。この言語は南アの歴史そのものである、即ち、1600年代に最初にオランダ人が入植し、フランス人、ドイツ人がそれに続いて入植、彼らの話したオランダ語を主体とし、仏語、独語のmixした独特の言語がこのアフリカーナーなのだそう。

この言葉話す人達もまたアフリカーナーと呼ばれるが、彼らは19世紀末にこの地で金やダイヤモンドを発見したものの、英国が乗り込むことになり、最終的に英国が権力をにぎり統治した。悪名高きアパルトヘイト政策も、突然に沸き起こり、活気を呈した鉱業の副産物として巻き起こったと考えて間違い無からうやや堅苦しい話になってしまったので少し別の方向に。

日本からZS方面に向かうには香港乗り継ぎが一般的、中にはドバイ経由もあるという。ただ、南ア国内はヨハネスブルグが経済の中心で、空の便もヨハネで入国ということになる。機の航路は私流のナビゲーションと全く同様に、VS6を飛び立つと真っ直ぐ9M2、YBの上を飛びインド洋を南西に横切って5R8から直線的にZSヨハネに入る、short pass ZSのコースそのものであった。

実に気分が宜しい。

この旅を決めた目的は4つ、まずは世界の3大瀑布に数えられているヴィクトリアの滝を見てやろう。AFの本物で雄大なサファリで動物たちの姿をこの目で確かめてやろう。AFの大地の最南の地を踏んでやろう。ZSのハムとeye ball Qしてやろうであった。

4つ目は今回はうまくいかなかった。大きな原因の一つはcall bookが無かったこと。今日では、少なくとも私の運用の仕方では、call bookは必要としなくなっている。QRZ.COM或いはそれに類するweb siteで全てことが足りてきた。ZS1の、或いはZS6の、この地域の、この町の局を網羅するという必要は普通のQSOには必要なことではない。

古い天馬のcall bookはとうの昔に破棄してしまった。そんな、こんなでZSアマ無線連盟のwebにはかろうじてたどり着き、比較的宿泊地に近いと思しき局にメールを入れるもかなり遠いよとアポが取れずにおわった。

移動中、ケープタウン近郷で一回だけ3ele HF YAGIは見つけたが、ZSでのハムとのかかわりはこれだけに終わった。

## 世界三大瀑布の一つ、ヴィクトリアの滝。

南アから一つ北の国、ジンバブエに入国、ヴィクトリアフォールズ市が滝観光の拠点、ヨハネスブルグから1時間のフライトである。滝はザンベジ川に懸かっており、源流は更に北、アンゴラ、コンゴ国境、ザンビア等に発し、ジンバブエを流れた後、モザンビゲを横切りインド洋に注ぐ(全長2750Km)。全幅1.7Km、落差110m。凄い滝であるには違いないが、南米イグアスの滝に比べ落下した後、流れる渓谷が真に深いのがこの滝の特徴のように思えた。渓谷が深いだけ水煙が消えず、いたるところに虹が見られるのが素晴らしい。 (FIG1,2,3)ただ、緯度からするとこの滝のほうがイグアスに比べずっと赤道に近いのに、気温が低いせいか昆虫類の活動は不活発に感じた。高度があるのか。リビングストーンさんなんでや？この滝は1855年イギリス人探検家デビッド・リビングストーンにより発見された。



Fig.1 滝にかかる虹がいたるところに



Fig. 3

この渓谷はジンバブエとザンビアとの国境をなし、滝から数Km下ったところには国境の橋が架かっている。(FIG4)国境といっても至って平和でのんびりしたものだ。当然、橋から数百m控えた所には双方とも入出国事務所があるが、観光客はvisa, pasportの提示のみで橋の向こう側まで行って帰ってこれる。橋の中央には落差100mのバンジー・ジャンプまである。現地の人たちは自転車に大きな荷物を積んだり、頭に大きな荷物を載せてゆっくりと橋を渡っていく。生活の中にある橋でとても国境の橋とは思えない。何時も、何処でもこうあって欲しいものだ。



Fig. 2



Fig.4 ジンバブエ、ザンビア国境にかかる橋

## サファリと猛獣

私が経験したサファリは全くの失望であった。サファリの運営自体、古き良き時代の亡霊に取り付かれた人達が、このアフリカのサファリを牛耳っているようにさえ感じた。サファリの美しい自然が、動物が、いずれ廃れてしまうのではないか。そう感じたのが私だけなら良いのだが、、南ア連邦の北東端に位置する広大な地方をクレーガー国立公園と称している。この地に分け入るにもヨハネスブルグから空路1時間はかかる連邦共和国の奥地である。事務所だけのちっぽけな空港、町も何も無い。ただ空港前の広場には一目でわかるトヨタのランドクルーザーを改造したオープンで9人掛けのサファリカーと呼ばれるジープが数台待機していた。後ろにはトランク類を収容する荷車を引っ張っている。宿泊するホテル(ここではキャンプというごとに人数が集められ乗り込んだ。東洋人らしいのが9名いたが全く面識は無い。空港を出ると間もなく、ガードマンのいる大きな門扉をくぐる。ゲートからは両サイドに通電された電線のフェンスが延々と伸びていた。30分、一面のブッシュの中に高いの、低いのと灌木の茂る原野、すなわちサファリを走った後、キャンプのゲートに到着した。(FIG5)チェックインを済ませると到着の20名ほどがラウンジに集められ、キャンプ内での生活の案内、食事、お茶の時間、ドライブサファリの案内、キャンプ内での禁止事項などの説明を受ける。キャンプはサファリの真っ只中にポツネンと一つだけあり周囲は一周45分ほど、これまた電流の流れる針金のフェンスで囲まれている。決してその外には出るなと、夜間は建物外には出るなと、昼間ならフェンス内は安全か?と聞くとサソリや毒ヘビがいるかも知れないからブッシュの中には入るなと、遊歩道のみを歩けというらしい。

建物は木造葎葺き、しっかりというより豪華に作られて洒落た感じ、立派なシャワーがあってトイレも清潔だ。木製のテラスがあり、ゆっくり外気を楽しめる。と、その時、テラスの向かいの木立にキリンが一頭、悠々と灌木の高いところの若葉を食べている。インパラらしき小動物も奥のほうに見られる。

キャンプから出てサファリで動物を観察するのは先ほどのサファリカーを使う。サファリドライブは早朝と夕刻の二回実施される。夕方4時、キャンプの正面広場に集合。(FIG 6,7)10台近いサファリカーが乗客の乗車を待っており、席の埋まった車から出発。我々日本人らしき9人が同乗するらしい。そんなに気を使ってくれなくても、自由にさせてくれれば青い目の可愛いお嬢さんの車に乗り込むのに、、

Fig.7 サファリカーの運転席にて



Fig.5 サバンナの中に唯一のキャンプ。4 square ant. ではありません。避雷針



Fig.6 サファリドライブの出発風景



サファリパークは我々日本人の感覚では想像もできないほど広い。一旦出発したら3時間ほどは走りまわるのだから、その広さが想像できようというものだ。特別なハブニングでもない限り、サファリカーが出くわすこともめったに無い。ボンネットより前に突き出た見張り席に現地人が、そして運転は多くの車は白人である。車は見張り人即ちガイドの指示によって導かれているようだ。広大なサファリパークの中に縦横無尽に張り巡らされた車道の面積ですら膨大なものである。いかにお客に珍しい動物を見せるか、数多く見せるかがガイド、そしてドライバーの腕の見せ所なのだろう。ガイドとドライバーが激しくやり取りする場面、車から降りて足跡を観察したり、追跡したりする場面もしばしばである。お客には何があっても立ち上がるな！車が止まっても降りるな！その時、ガイドが何かを見つけたらしい。ライオンの真新しい足跡だとか。どたんに車は道をそれブッシュの中へ。周りの立ち木をなぎ倒しながらバキバキと前進する。枝が顔や首にピシピシ当たって痛いかな。前にかがんで顔をひざの間に入れどけと。とくるまの勢いが静まり、ほら、あそこにライオンが。親子かな。大きいのと小さいのと。チラッとこちらを見たがまた知らん顔でゴロンと寝転んだ。その距離6~7mか。夕方でそろそろお休みの時間なのにお騒がせさま。(FIG8,9,10)彼らはこのスタイルをゲームサファリと呼んでいる。しかし、これがサファリを楽しむ正しい姿なのだろうか？ またまたブッシュをなぎ倒しながらもとの道路へ。小さい湖のほとりにさしかかる。夕陽が対岸の木々に沈んでいく。実に神秘的な光景。ガイドと運転手が車からテーブルを降ろし白いクロスをかけて紅茶を入れてくれる。ビスケットまである。何と気の利くこと。相当気温は下が10度位か。何だか肌寒い感じのするなか暖かい紅茶は最高だ。ところがチェックアウト時この紅茶が一杯2000円付いていたとは、ギョツ！！

飲む前に言ってくれよ！！  
水辺には近づかないように、ワニがいるから。向こうの岸辺で丘みたいに見えるのはカバの背だとか。  
サファリドライブは一日二回、毎日実施されるが、その度にブッシュの中をバキバキ走り回って草木をなぎ倒す、動物を某弱無尽に追い詰めて人の欲望だけを満足させようとする。お客を満足させようとするサービスピ精神には感服するが、この地の主役は動物たちであり、物言えぬ草木であるべきじゃないのかな。  
今という時代は、あなた方の先祖が財力にものを云わせ原住民を道具のようにこき使い、殺したいだけ殺し、切り倒したいだけ切り倒し好き勝手に振舞った忌まわしきあの時代からは遙かに進化した時代のはずなのだが、、、このサファリがプライベートの領地であるのが無かるうが、そんなことは関係ないはずなのだが、、、



Fig.8 迷惑顔のライオン



Fig.9 サファリドライブまっしぐら



Fig. 10 ウォーキングサファリでは銃を携えて

## AF大陸の最南端認識不足

その昔、EUの商船がVU方面へ航海するときの絶好の補給基地として利用したのがケープタウンで、当時は大いに栄えたが、現在では海運の中心はダーバンに、経済の中心はヨハネスブルグにと変遷してしまったのだぞ。しかし、現在でもケープタウンは南ア第二の都市であり、テーブルマウンテンを背景に、19世紀の名残をとどめる建築物が多く、実に美しい魅力ある街に違いない。(FIG11, 12)この街からは更に南にケープ半島がのび、かの有名な喜望峰Cape of Good Hopeはこの半島の先端になる。私も大きな間違いをしていたのだが、AF大陸の最南端は実は喜望峰ではなく、喜望峰から150Kmlほども東南によったアグラス岬であった。



Fig.11 朝日を浴びるテーブルマウンテン

いずれにしてもAF大陸の南端となると日本からだ如何にも南で、南極大陸にもほん近くのように感じがちであるが、じつはケープ半島から南極大陸まではまだ8000Kmもあり(S32度)、NZ南島の南端(S47度)、CE最南端(S57度)のほうが余程南極大陸には近いのだ。  
 天候が安定しないことで有名なテーブルマウンテン(海拔約1000m)であるが、私が訪れた日は珍しく快晴無風、頂上からはケープタウン周辺からテーブル湾ケープ半島先端まで素晴らしい眺めが広がった。(FIG13)湾内にはかつてネルソンマンデラ氏が政治犯として幽閉されていたロベン島の島影もしっかり望むことが出来た。喜望峰の沖合いにはスエズ運河を通過することの出来ない超大型船が西に東にと幾度と無く通過して行くのがみえた。(FIG14,15) 08/ 2012



Fig. 13 テーブルマウンテン頂上よりの遠望



Fig. 12 ベイエリアで見かけた距離標柱



Fig. 14 喜望峰に設置されたランドマーク



Fig.15 古くなく使われなくなった喜望峰灯台